

科目名	基礎医学実習 ①						授業の種類	実習	必修・選択		必修
授業回数	23	回	時間数	45	時間	1	単位	配当学年時期		1年	後期
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 臨床工学技士の業務は、医療機器の安全管理、生命維持装置の操作と保守管理、血液浄化、体外循環等広範囲に渡る。そのいずれもが、人の生命に直接関係する重要な仕事である。本講座の目的は基礎医学の実習であるが、これは理論だけを学ぶのではなく、実習をすることにより深め、実際の医療の現場で役に立つような基礎を構築することである。生命の基礎を学ぶことが、今後社会で仕事をする中での基礎として生きると考える。											
<b>【実務者経験】</b>											
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 人の構造及び機能、病理学概論について構造的、機能的、形態的に理解を深めることを目標として実習を行う。											
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> ・顕微鏡を初めとした実験機材や医療機器の基本的な取扱い方法を身につける ・血液検体の取扱い方法や各種薬剤の適切な取扱い方法を身につける ・基礎解剖学的知識を自分なりに説明することができるようになる											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	顕微鏡（血液）										
2	顕微鏡（皮膚）										
3	顕微鏡（病理組織）										
4	顕微鏡（微生物）										
5	心電図（12誘導）										
6	心電図（筋電図、交流波）										
7	聴診器（血圧測定）										
8	聴診器（心音、呼吸音）										
9	移乗（ベッド⇔車いす）										
10	移乗（ベッド⇔ストレッチャー）										
11	半透膜										
12	半透膜										
13	水の電気分解										
14	水の電気分解										
15	酸性とアルカリ性（アルカリによるタンパク分解、酸による塩溶解）										
定期筆記試験											
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> ・新版 エッセンシャル解剖・生理学、堀川 宗之、秀潤社 ・臨床工学技士標準テキスト、小野 哲章ほか、金原出版株式会社 ・配布資料											
<b>【準備学習・時間外学習】</b> ・事前に教科書や解剖学の板書ノートを復習しておくこと ・講義後は実験内容を所定の書式にまとめ、理解を深めておくこと											
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点として成績を評価する 課題の評価を20点、小テストを20点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する											

科目名	基礎医学実習 ②						授業の種類	実習	必修・選択		必修
授業回数	23	回	時間数	45	時間	1	単位	配当学年時期		1年	後期
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 臨床工学技士の業務は、医療機器の安全管理、生命維持装置の操作と保守管理、血液浄化、体外循環等広範囲に渡る。そのいずれもが、人の生命に直接関係する重要な仕事である。本講座の目的は基礎医学の実習であるが、これは理論だけを学ぶのではなく、実習をすることにより深め、実際の医療の現場で役に立つような基礎を構築することである。生命の基礎を学ぶことが、今後社会で仕事をする中で基礎として生きると考える。											
<b>【実務者経験】</b>											
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 人の構造及び機能、病理学概論について構造的、機能的、形態的に理解を深めることを目標として実習を行う。											
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> ・顕微鏡を初めとした実験機材や医療機器の基本的な取扱い方法を身につける ・血液検体の取扱い方法や各種薬剤の適切な取扱い方法を身につける ・基礎解剖学的知識を自分なりに説明することができるようになる											
回数	講義内容										準備物(教材)
16	酸性とアルカリ性（アルカリによるタンパク分解、酸による塩溶解）										
17	細胞内液と細胞外液（Na、K測定）										
18	細胞内液と細胞外液（Na、K測定）										
19	血液（遠心分離、血清と血餅）										
20	血液（遠心分離、血清と血餅）										
21	血液（ヘパリン添加、血漿と血球）										
22	血液（ヘパリン添加、血漿と血球）										
23	終講実習の解説とまとめ										
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
定期筆記試験											
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> ・新版 エッセンシャル解剖・生理学、堀川 宗之、秀潤社 ・臨床工学技士標準テキスト、小野 哲章ほか、金原出版株式会社 ・配布資料											
<b>【準備学習・時間外学習】</b> ・事前に教科書や解剖学の板書ノートを復習しておくこと ・講義後は実験内容を所定の書式にまとめ、理解を深めておくこと											
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点として成績を評価する 課題の評価を20点、小テストを20点、定期試験を60点として合計100点とする 60点以上の場合に科目を認定する											